

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281
e-mail: blrhgy@extra.ocn.ne.jp URL: http://blrhgy.org/

所長の諏訪山だより

「人間に光あれ」は、どう読むのか

50音順で引く近代国語辞典の嚆矢といわれる大槻文彦著『言海』は、1889年に出版された。そして、1904年には、コンパクトな縮刷版が刊行された。この縮刷版が複製され、ちくま学芸文庫から出ている。先日、それを読んでいると、人間の項に目が留まった。そこには、「にんげん(名) [人間] (1) ヨノナカ、世間。(2) 仏教ニ、六界ノ一、即チ、此ノ世界。人間界。人界。(3) 俗ニ、誤テ人」とあり、人間とは世の中を意味し、人と解するのは誤りであるというのだ。

そこで、『新式辞典』1912年、『広辞林』1925年、『改修言泉』1927年、『小辞林』1928年などで人間を引くと、人という意は誤りという記述はなく、「人」という意味があげられている。しかし、それは2番目で、最初は「人の住むところ、世間」があがっているのである。戦後の国語辞典でも、『広辞苑』1955年、『精選版日本国語大辞典』1995年、『広辞苑』(第7版)2018年などがこの順となっている。要するに、「人の住むところ」という、もとの意味に「人」という意味が付け加わったのであろう。1980年代以降になると、「人」という意味のほうが先になる国語辞典が増え(『広辞林』(第6版)1983年、『学研国語大辞典』1988年、『大辞林』(第2版)1995年、『岩波国語辞典』(第8版)2019年など)、1990年以降は、「人の住むところ」という意味が削除された国語辞典が出てくる(『角川必携国語辞典』1955年、『新辞林』1999年、『明鏡』2002年、『三省堂国語辞典』(第7版)2014年など)。このような国語辞典における「人間」の意味の変遷から、本来は「人の住むところ」という意味の人間が、「人」の意味にも使われるようになり、近年になると、人間はもっぱら「人」という意味だけで使われ、「人の住むところ」という意味では使われなくなってきたといえる。

全国水平社創立宣言には、人間という言葉が10回、使われている。10回目の「人の世に熱あれ、人間に光あれ」の人間は「世の中」という意味で、「じんかん」と読むべきだとの指摘がある。しかし、世の中の意味の「じんかん」は、本来、「人寰」と書き、「人間」とは表記しないのである(寰は「まるい大空に覆われた世界」の意)。国語辞典で「じんかん」を引くと、1960年ごろまでは「人寰」しかあがっておらず、1970年代ごろから「人寰」と「人間」の両方があがり、1995年以降は「人間」のみの国語辞典が多くなる。要するに、人間から「世の中」の意味がなくなるにつれ、「世の中」の意味の人寰が人間にとって代わられたのである。

したがって、1922年当時は、人間には「世の中」と「人」の2つの意味があり、「じんかん」は「人寰」とのみ表記し、人間は「じんかん」とは読まなかったのである。永六輔さんが西光万吉さんに「人間に光あれ」の人間は、「にんげん」と読むのではなく、「じんかん」と読むのではないかと尋ねたところ、西光さんは「いいんです、『にんげん』で。でも、ほんとうは『じんかん』なんです」と答えたと(永「ほくが出会った西光さん」『部落解放』1991年6月号)。つまり、「人間に光あれ」の人間は、「にんげん」と読み、その意味は「世の中」なのである。

所長 石元清英

はじめてみよう！

部落問題学習、考え方・実践のヒント (その8)

当研究所では「これからの部落問題」学習プログラム作成研究会を組織し研究を重ね、2017年3月に解放出版社より『はじめてみよう！これからの部落問題学習』（2,000円+税）を刊行しました。うれしいことにご好評をいただき、2020年8月、2度目の増刷となりました。当欄では『はじめてみよう！』掲載の16のコラムを順次掲載し、部落問題の考え方のヒント、学習実践のヒントをご提供していきます。

▶『「気にしない」から「つながる」へ』／井上浩義（兵庫県立加古川東高等学校教諭）

部落出身の生徒が、人権学習の時間などで、自ら部落出身であることを表明する場面があります。たとえば、人権学習の時間があまりに低調で、否定的な発言があったり、同じクラスの生徒たちの無関心な態度が見られるときは、「自分の悔しい気持ちをわかってもらいたい。もっとみんなに考えてほしい」という思いをこめて。また逆に、クラスの生徒が部落問題を真剣に考え、差別をなくそうという意欲の強さが感じられるときは、「このクラスの、このメンバーになら話せる」という信頼をもって。

部落出身であることを表明した場合、「そんなの気にしない」「関係ない」という反応があったとします。悪意をもっての言葉ではなく、ほとんどの場合、「私たちの友人関係は変わらない」「なにも人間関係に支障をきたすものではない」という思いをこめてのものでしょう。

実際、部落出身であることを表明するという事は、心震える行為なのです。心だけでなく、声も体も震える。とてつもない勇気をふりしぼって行われることなのです。友人との関係がぎくしゃくしてしまうかもしれない、友人に嫌われるのではないか、クラスのなかで孤立してしまうのではないかという心配、怖さ……それに対して、「関係ない」「気にしない」という言葉を聞いたとき、表明した側はいったいどんな思いをもつのでしょうか。「そうか、気にしてないんだ」と一瞬うれしい……でも「関係ない」「気にしない」ってなに？ 自分がここまで思いを込めて言ったこと、自分の存在を賭して表明したことに「関係ない」はないだろう、関係はおおありなんだよという切なさ、悲しみ、あるいは怒り……。

「関係ない」「気にしない」は、関係性を断つニュアンスを含んでいないでしょうか。

出身を表明した側は、自分が部落出身であることを互いの関係に位置づけて、より親密な、より深い信頼関係を築きたいという願いをもっているのです。だとすれば、「関係ない」「気にしない」ではなく、どうして話そうという気持ちになったのか、その思いに耳を傾け互いに考えたこと、感じたことをぶつけ合うことが大切ではないでしょうか。

そのような、プラスに転じていくべき緊張感のある場面を生み出すには、人権学習の時間のみならず、日ごろの学校生活のさまざまな場面で、相手をまるごと受けとめよう、受けとめたいという雰囲気、素地がかたちづくられている必要があるでしょう。そのような雰囲気が集団があれば、「自分の大切なことを明らかにしても大丈夫」と思える信頼感が生まれくるはずです。

「気にしない」「関係ない」ではなく、より深く「つながりあう」関係を、人権を尊ぶ集団、クラスの中心に位置づけたいものです。

◆第3回人権セミナー延期のお知らせ

2021年9月18日（土）に開催予定でした第3回人権セミナーは、2022年2月5日（土）に開催いたします。

『同和対策事業から平等を考える』

講師：柴原浩嗣さん
（大阪府人権協会事務局長）

場所：兵庫県立のじぎく会館
ふれあいルーム（定員40人）

日時：2022年2月5日（土）
14：00～16：00



『ペリリュー —楽園のゲルニカー』全11巻

作: 武田一義、白泉社、2016～2021年、各660円(税込)

ペリリュー島は、南太平洋パラオ諸島南部の小さな島である。サンゴ礁の海、熱帯の豊かな緑に覆われた美しくも小さなこの島で、太平洋戦争時、日米合わせて5万人の兵が死闘を繰り広げた。

南方における日本軍最大の拠点フィリピンを守り抜き、日本本土への侵攻を阻止することを目的にペリリュー島には1万人の守備隊が配属された。最初にページを開いてみると、あれ?と思う。登場人物はみな3頭身で描かれており「戦争を描いた漫画」のイメージとは程遠い。こんな絵柄で過酷な戦闘シーンや殺戮場面を描けるのだろうか。主人公の田丸均一等兵はびっくりした頬に四角い眼鏡、おっとりとしたやさしい青年だ。後に無二の親友となるしっかりものの吉敷佳助上等兵はくりくり目玉がかわいらしい。そんなキャラクターたちの印象とは裏腹に、壮絶を極めた戦場は、読み進めるうちに「史実に基づいたフィクション」という設定のとおり、強烈な迫力で読者に迫る。



アメリカの圧倒的な兵力の前に、味方の兵が次々と銃弾に吹き飛ばされて死んでいく。ときにはジャングルのぬかるみに足をとられて、石に頭をぶつけ、あっけなく死んでいく。死と隣り合わせの日々の中、田丸は「功績係」を命じられる。功績係とは戦死した者たちの「最後の雄姿」を日本にいる家族に知らせる手紙を書く仕事だった。石に頭をぶつけたなどとは決して書けない。お国のために、果敢に敵陣に突撃し、天皇陛下万歳を叫びながら、壮烈なる戦死をとげられました——そう伝えなければならなかった。

敗北が決定的となったペリリュー地区隊本部は、パラオ集団司令部に玉砕の許可を請うが、司令部はそれを許さず、あくまで持久に徹するようにとの命令を下す。熱帯の暑さと猛烈なほどの渴き、物資など全く届かない中、兵士たちは餓えと渴きに苦しみながら、次々に命を落としていく。兵士たちが身を潜める壕は、自然の洞窟を掘り進めたもので、狭くて暗く、強い湿気と酷い臭気に満ちていた。

米軍基地に忍び込み、食料や医薬品を盗む傍ら、偶然見つけたアメリカの雑誌で敗戦後の日本の写真を目の当たりにしても、避難させた島民が米軍の船で帰ってきても、彼らは戦い続けた。11度に渡る天皇からの「御嘉賞(お褒めの言葉)」と、「勝つまで戦い続ける」という信念にしがみつこうように——。1947年3月、田丸は抗戦を続けようとする軍の命令にそむき、一人でアメリカ軍に投降する。生き残った仲間とともに日本に帰るために——。そして同年4月、すべての日本兵は米軍に保護される。その数は、田丸を含めて、わずか34人だった。

作者の武田一義はインタビューで「1万人の日本軍は、1万通りの別の人生が集まった集団だという想像が働くように」作品を描いた。1巻の巻末に「あくまで漫画である以上読みやすく面白くないといけない」と書いていたのには、少し違和感があったが、読み終えたあとでその言葉がもつ、本当の意味に気づく。

連載の終盤、ほとんど資料が残っていない敗戦後の日々を描くために、武田はペリリュー島を訪れている。人が1人、やっと通れるくらいの狭い洞穴。ライトを消すと昼でも真っ暗闇の湿気に満ちたその場所には、日本兵の水筒や飯盒がたくさん残されていた。一万人を超える兵士たちの、それぞれの人生もまた、この小さな島に残されたままだ。

そして、島には、日本式の浴槽施設をもった住居跡が今も残されている。住民の「日本軍の遊興施設であった」「たくさんの朝鮮人や中国人の女性たちがいた」との証言があるが、正確な実態は、調査さえされていない。

(K)

※武田一義の取材の様子はNHKアーカイブスで現在も配信されている。https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/movie.cgi?das_id=D0001230008_00000

人権啓発研究第42回兵庫県集会

日時：2021年11月20日(土) 13:00～16:30

- 参加方法：(1) 神戸市勤労会館【大ホール】※定員250人
参加費：3,000円(学生・障害者1,500円)※討議資料・報告書含む
- (2) オンライン配信
参加費：3,000円(学生・障害者1,500円)※討議資料・報告書含む
- (3) サテライト会場(県内隣保館等)
※定員は各館によって異なります。
当日資料代：500円(報告書は含みません)

参加申込締切：2021年11月12日(金)

参加申込方法：参加方法によって異なります。開催要項、研究所HPをご覧ください。

- | | |
|--|--|
| 13:00 開会行事 | 【お知らせ】
シンポジウムのパネリストは青山薫さんから神原文子さんに変更となりました。 |
| 13:20 記念講演「コロナ禍の貧困の現場から見えてきたもの」
講師：雨宮処凛さん(作家・活動家) | |
| 14:40 シンポジウム「格差社会を考える」
パネリスト：髙本郁さん(神戸の冬を支える会代表理事・NGO神戸外国人救援ネット運営委員)
神原文子さん(社会学者・専門社会調査士)
コーディネーター：宮前千雅子さん(関西大学人権問題研究室委嘱研究員) | |

お問合せ：人権啓発研究第42回兵庫県集会事務局(ひょうご部落解放・人権研究所)
〒650-0022 神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281 mail: kenkenhyogo@gmail.com

《ひょうご部落解放・人権研究所 第4回人権セミナー》

「差別糾弾と謝罪—全国水平社創立100周年にかかわって」

講師：朝治武さん(大阪人権博物館理事長)

日時：2021年12月4日(土) 14:00～16:00

参加方法：①会場参加【神戸市教育会館501号室】(定員40人) ②Zoom配信(定員90人)

参加申込：メールやお電話の他、HPからもお申し込みいただけます。

<http://blrhyg.org/seminar/seminar.html>

事務局から

- 8月、喉が痛い、鼻水が……となり、コロナかもしれないので出勤できず、PCR検査を受けました。陰性だったのは幸いです。なかなか面倒です。風邪をひかぬようにせねば。(ka)
- 『ひょうご部落解放』180号に、友人の娘が執筆している。在日を生きる両親をしっかり受け止めて育ったんだなあ、とうれしくなった。趙清香さんの記事、ぜひ読んでください。(K)
- 近くに安い(2000円台)PCR検査センターができたのでイベント参加前に受けてみた。NYみたいに無料でいつでも受けられるなら週1回は受けたい。検査の拡大が感染防止に役立つと多くの専門家が言っているがなんでしないんだろう。五輪ではやったのに(H)
- 久しぶりに体調を崩して、ポロポロに。2歳の娘ちゃんには十分な睡眠をとらせてくれません(笑) つくづく健康のありがたみを感じました。(ひ)